

akane

あかね

vol.41
2019 Summer

医療を通じて人と地域を結ぶメディカル情報誌

Close up 土谷総合病院 血管専門外来開設
歩くと痛くなるふくらはぎ、傷ついた足を治す(下肢救済チーム)

Topics 皮膚科
様々な原因が引き起こす重症下肢虚血について



いま求められている医療の最高レベルを目指すとともに、明日の医療のあり方に機能しよう



医療法人あかね会



医療法人あかね会 理事長
土谷 治子

令和元年6月1日より前任の土谷晋一郎より引き継ぎ、医療法人あかね会理事長を拝命致しました、土谷治子でございます。

昭和12年4月1日 私の祖父、土谷剛治により広島市西新町（現在の土橋、河原町あたり）に個人病院の外科土谷病院としてスタートいたしました。その約30年後、昭和41年5月19日に父、土谷太郎が医療法人あかね会を設立し、初代の理事長となりました。土谷太郎が理事長であった、昭和40年代は日本全体が急成長をしている時代でした。その世の中の流れもあったのですが、当時としては高度先進医療であった人工透析を導入し、循環器内科、心臓血管外科、NICU（新生児集中治療室）、さらに阿品土谷病院を開設し、名称も「土谷病院」から「土谷総合病院」となり、あかね会は躍進をした時代でした。

平成に入り、土谷太郎が病氣療養となり、土谷晋一郎が二代目の理事長となりました。土谷晋一郎の平成の時代、日本は自然災害に多く見舞われ、経済的にもバブル崩壊、リーマンショック等、「平成」という言葉とはかけ離れた30年だったと感じます。その中で日本社会が急速に高齢社会に突入し、医療を取り巻く環境が激変していくことをいち早くキャッチし、老人保健施設シエスタの開設をはじめ、在宅医療部門の強化を図りました。

さて、令和の時代、少子高齢化、人口の減少と医療を取り巻く環境はますます厳しい時代になると思われま。あかね会においても土谷総合病院、阿品土谷病院の建物の老朽化、働き方改革等々たくさんの課題がありますが、今までと同様に「いま求められている医療の最高レベルを目指すとともに、明日の医療のあり方に機能しよう」という理念のもと、患者さんに満足していただける医療を提供することを第一に考えていきます。

医療法人あかね会の歴史を引き継ぎながら、また新しい時代に即してあかね会も新しいスタートが出来るよう職員一丸となって、より一層努力していく所存でございますので、今後とも皆様のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



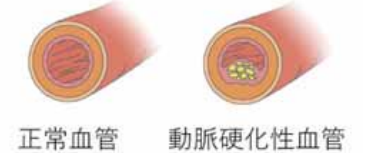
Close up
土谷総合病院
血管専門外来開設

歩くと痛くなるふくらはぎ、傷ついた足を治す(下肢救済チーム)

土谷総合病院に下肢救済チームがあるのをご存知でしょうか。15年前に開設された創傷ケアセンターを軸に集まった専門集団で、主に「**下肢閉塞性動脈硬化症**」の治療を放射線科・心臓血管外科・皮膚科・リハビリテーション科等が連携して行っています。

下肢閉塞性動脈硬化症とは

足の動脈が傷んで血管の内側が狭くなったり、詰まったりする病気です。糖尿病・高血圧・脂質異常症・喫煙などの生活習慣病を持っている方ほど起こりやすくなります。動脈硬化が足にある場合、他の血管も動脈硬化を起こしている可能性が非常に高く、心筋梗塞、脳梗塞などの病気にも注意する必要があります。



下肢閉塞性動脈硬化症の症状

下肢閉塞性動脈硬化症は4段階に分けることが出来ます。

- ①足が冷たくなる・しびれがある
- ②歩くと足が痛くなり、少し休むとまた歩けるようになる(間歇性跛行)
- ③安静時も足が痛くなる
- ④小さな傷がなかなか治らず、潰瘍ができたり壊死を起こしたりする(重症下肢虚血)



下肢閉塞性動脈硬化症の疑いのある患者さんは、以下のような症状を話されます。

- 最近歩くと足が痛くなっていただけ年のせいだと思っていた。
- 足と腰が痛いのでずっと整形外科でリハビリしていた。
- ぶつけた傷が治らずに1ヶ月消毒を続けていた。
- 糖尿病で出来た下肢の傷は治らないと言われ、あきらめていた。

下肢救済チームによる治療の流れ

足の指や踵になかなか治らない傷や強い痛みのある傷がある方をご紹介頂いた際は、まず血流の検査をします（血流が悪いと傷が治りません）。血流が悪い場合は、放射線科や心臓血管外科が連携して血流を改善するカテーテル治療等をし、並行して皮膚科で傷のケアを行います。また高齢の方はすぐに足腰が弱ってしまいますので、傷がある状態でも早期から傷に負荷をかけない特殊なリハビリを行います。これらの治療を適切なタイミングで行うことが、とても重要です。



土谷総合病院 心臓血管外科 望月 慎吾

お心当たりのある方は、一度ご相談ください

一般的に足が痛くなって、血管が原因だと想像できる方は殆どいません。歩いて足が痛くなると多くの人は整形外科を受診され、傷ができると皮膚科を受診されます。しかし、心筋梗塞を想像してください。心臓の血管が詰まると心臓が痛くなるように、足の血管も詰まると足が痛くなります。下肢閉塞性動脈硬化症は、症状があるにも関わらず診断が遅れやすい病気です。時機を逃すと悪化して下肢切断が必要になる場合もあります。知らないだけで何年も病気で苦しむのはとても残念なことです。前ページの症状が思い当たる方は一度、当院、心臓血管外科または皮膚科にご相談ください。

下肢閉塞性動脈硬化症の治療について

■内服治療（抗血小板剤）

血液をサラサラにする血流改善薬です。足の血管が悪い人は、心臓や頭など他の部分の血管も傷んでいる可能性が高いので病気を進行させないためにも必要です。お薬を飲んだだけで500mも歩けなかった人が1km以上歩けるようになります。

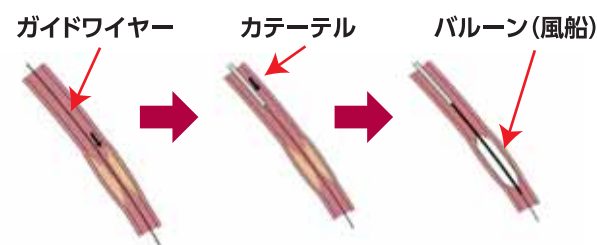
■運動療法

歩く足が痛くなる方は、歩いても良いのか心配されます。歩かないと病状は悪化しますので歩行方法を簡単に説明します。10分程度歩けるくらいの速度で歩いて、足が痛くなったら休む→休んで痛みが治ったらまた痛くなるまで歩く。これを繰り返して30分続ける。

毎日、朝・夕にするのが理想的です。難しい方は朝だけでも行ってください。個人差はありますが、治療前に500~1km程度歩ける方は、2~3km歩けるようになります。手術を回避するためにも早期発見、早期治療が大切です。ただし、足に傷がある人・歩かなくても足が痛い人は、歩くと足にダメージを与えてしまうことがありますので、一度専門医にご相談ください。

■血管内治療（カテーテル治療）

足の付け根や肘の血管からカテーテルを通す治療です。大きく切開する必要はありません。ガイドワイヤーという先の柔らかい針金を使って血管の中を進み、詰まった血管の先に到達させます。ガイドワイヤーに沿わせてカテーテルというストローのようなものを閉塞した部分まで運びます。このカテーテルの先には風船が仕込んであり、閉塞した部分で膨らませ、詰まった部分を押し広げます。風船を膨らませるだけでは血管がすぐにもとに戻り、また詰まってしまう方もいます。その場合はステントという金属のパネを入れて血管が縮まないよう固定します。この治療は最近目覚ましく進歩し、新しい道具が次々に開発されています。



■バイパス手術

動脈の詰まった部分を飛び越えて新しい血管を作る方法です。人工血管やご自身の静脈（足の表面の静脈）を用いて血管が詰まる手前から、詰まった後の部分に血管をつなぎます。心臓血管外科で長年行われてきた治療ですが、最近の心臓血管外科医はカテーテル治療とバイパス治療も組み合わせたハイブリッドな治療を行います。非常に傷んだ血管はハイブリッド治療でないと治療できない場合もあります。

上記治療を組み合わせると下肢の治療にあたりますが、間歇性跛行の方と重症下肢虚血（下肢潰瘍や壊死）では治療難易度が全く異なります。

間歇性跛行ではふくらはぎが痛くなりますので、ふくらはぎまでの血流の改善を図ります。一方、重症下肢虚血では傷が踵やつま先にでき、足先まで血流を改善する必要があります。

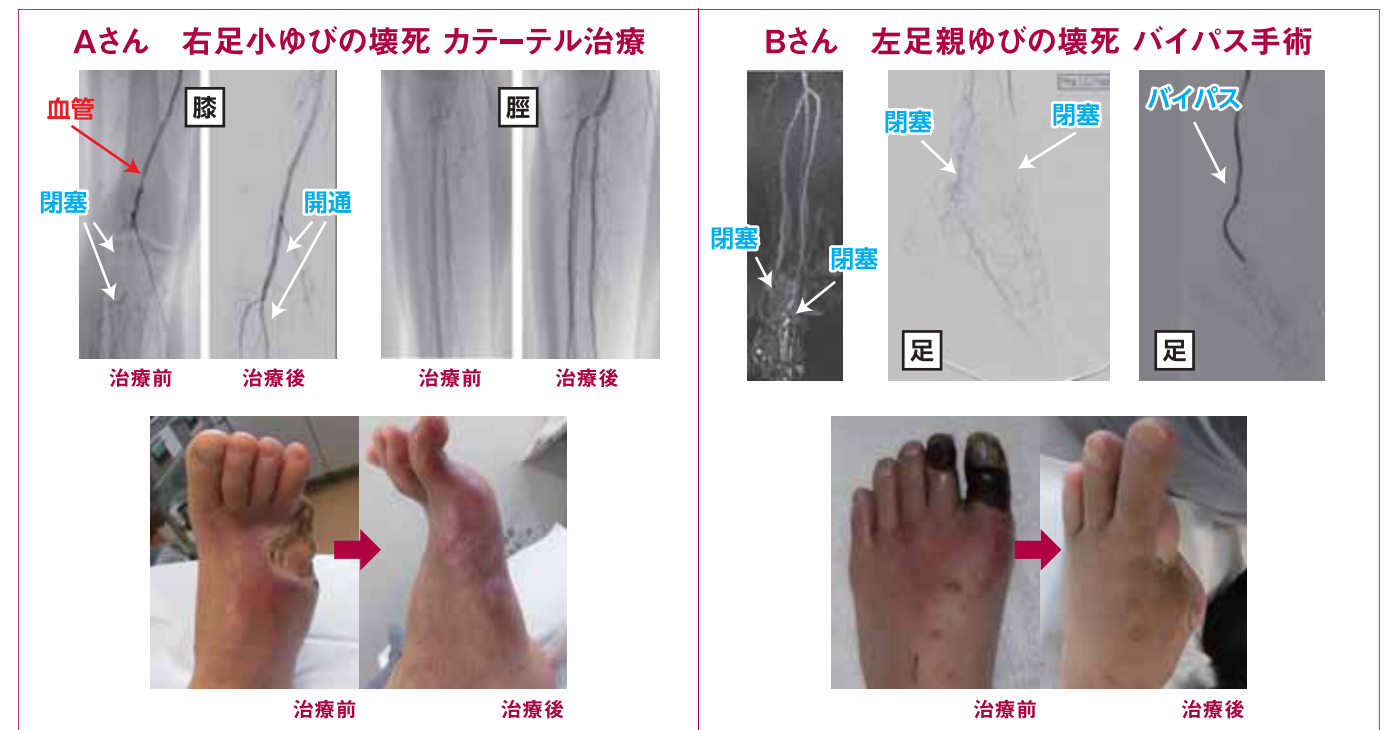


重症下肢虚血の治療について

最後に一番治療が大変な重症下肢虚血に関して説明します。

一旦傷が出来てしまうと、傷を治すためには通常より多くの血液を必要としますので、重症下肢虚血の傷は、ほとんどの場合カテーテル治療かバイパス手術が必要です。傷ができる方は、膝から趾の1~3mmの細い動脈が痛んでいることが多いです。血管が細いと血管内治療・バイパス治療の難易度も高くなりますが、当院では15年前より細い血管へのカテーテル治療も本格的に開始しております。私個人としてもカテーテル治療に10年前から携わっており、放射線科医と2人3脚で毎日のようにカテーテル治療を行っています。また、もともと専門分野でもあるバイパス手術を足首より先の1~2mmの細い血管にも行っています。

下肢に傷ができた2人の患者さんに対する血管治療を紹介します。2人とも下肢救済チーム治療で治癒いたしました（治療内容は次ページ参照）。



透析に携わる方や皮膚科の先生の間では壊死した足は“土谷病院へ”と浸透しつつありますが、ここ数年で内分泌内科をはじめとする一般開業医の先生方にも徐々に知って頂けるようになりました。

繰り返しますが、血流を改善させても、傷の処置を正しく行わないと効果は半減します。皮膚科、リハビリ部門と連携し、血流状態、傷の処置、リハビリをすることが重要です。治療開始が1週間遅れると、治療期間が1ヶ月伸びることがありますので、迷って手遅れになるよりは、心配であれば早めにご相談ください。



土谷総合病院 皮膚科 静川 寛子

様々な原因が引き起こす重症下肢虚血について

近年、高齢化に伴い末梢動脈疾患や糖尿病の患者数は増加の一途をたどっています。末梢動脈疾患の患者さんは、足の血管に動脈硬化が起こり、血管が細くなったり詰まったりして足に十分な血液が流れなくなっています。また、糖尿病の患者さんは足の血流が悪くなるだけでなく、高血糖が長く続くことで視力が落ちたり、足の裏の感覚が鈍くなるなど、様々な合併症を併発するため、足に傷ができていては気が付きにくくなります。そのため、気が付いた時には傷がかなり大きくなっていたり、感染を起こして広範囲に壊死（組織が死んでしまっている状態）していたり、感染が骨まで達していたりと重症化していることが多く、残念ながら下肢切断に至るケースもあります。

当科を受診される患者さんの多くは透析患者さんです。透析患者さんは末梢動脈疾患や糖尿病を合併していることも多く、足に傷ができて当科を受診される透析患者さんのほとんどは重症下肢虚血です。重症下肢虚血の傷を治すためには、まず血流を改善させないとはいけません。前出の血管治療のページでも述べられているように、血流の治療がうまくいくと、その後の傷の処置を適切に行う事の両者が揃わないと傷は治りません。また、傷を治すことばかり考えていると、傷に負担がかからないように安静にしてしまいがちですが、ここにも大きな落とし穴があります。長期間安静にし続けることで、いざ傷は治った方がいいが、足腰が弱って寝たきりになってしまったのでは傷を治した意味がなくなってしまうからです。そのためには、傷の安静を保ちながら、その他の部位の運動機能を保つ必要があります。これにはリハビリや装具などが非常に大きな役割を果たしています。つまり、重症下肢虚血と闘うには、血管と皮膚、双方からのアプローチが重要であり、また、同時にリハビリや装具を駆使することで患者さんの歩行機能をできるだけ維持するということが、我々“下肢救済チーム”のゴールなのです。

ここで実際の症例を紹介します。Aさん（前ページの写真参照）は糖尿病の患者さんで、血液透析中の方です。右足の小ゆびに靴擦れによる傷ができましたが、血流が悪いために急激に壊死が進んで、他院で治療を受けていました。他院で血管内治療による血行再建が行われましたが、期待されただけの血流改善が得られず、傷に改善傾向が全くないため、ひざ下での切断を提案されました。しかし、Aさんは納得されず、どうにか下肢を残して傷が治せないかとのことで、当科を紹介されて受診されました。

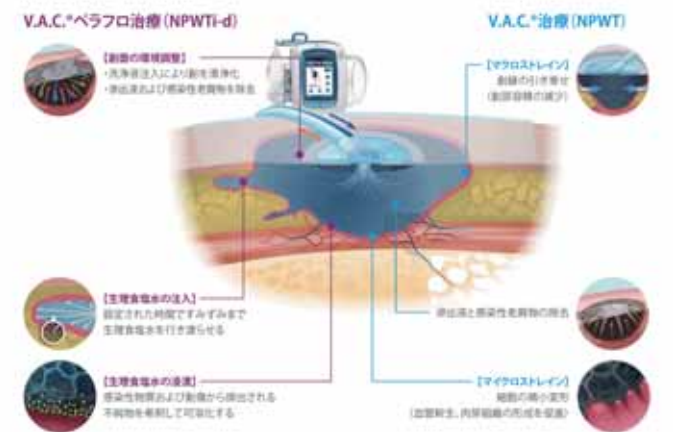
まずは皮膚の血流を測定する検査を行いました。すると、傷の周囲は血流が低く、傷を治すためには血管の治療が必須でした。そこで血管外科に相談し、まずは血管内治療で血流を治療



してもらいました。血流が改善したところを見計らって、壊死組織と骨髄炎を起こしている骨を除去する手術を当科で行いました。その後は、傷に肉を盛らせて、塗り薬の治療でおよそ3か月かけて傷を治しました。傷が治るまでの間は、リハビリ担当の理学療法士と密に連絡をとって、傷に負担をかけないように注意をしながら徐々にリハビリの段階を上げていき、歩行能を維持します。また、歩行時に傷に体重がかからないように装具も作成します。こうして、他院でひざ下での切断を宣言されたAさんは、無事、局所での切断のみで傷を治すことができ、現在もご自身の足で歩いて外来を受診していただきます。

Bさんも糖尿病のある血液透析患者さんです（前ページの写真参照）。左足の親ゆびが黒色に変化し、強い痛みがあるとのことで、血管外科で血管内治療やバイパス術による血流の治療を行いました。Bさんは比較的急速に血流が悪化したため、皮膚のダメージが大きく、完全に壊死してしまいましたが、幸い感染は起こしておらず、骨は無事でした。重症下肢虚血の傷を手術する際に心がけることは、とにかく必要最低限の範囲で切除することです。重症下肢虚血の患者さんは全身の血管が傷んでいることが多いので、一つ傷が治ってもまたすぐに新しい傷を繰り返します。足の傷が治らないからといってすぐに大切断してしまっていたら、近い将来反対の足にも傷ができた際にあっという間に両下肢を失うことになってしまいます。ひざ上での大切断をした場合、義足を作っても歩行能を維持できることはほとんどないと言われています。切断する部位によって、歩行できるか、それとも寝たきりになるか、その後の生活が180度変わりますので、患者さん本人はもちろん、家族の介護の負担も大きく変わってきます。

Cさんは虚血のない糖尿病患者さんです。前述したように、糖尿病のコントロールが悪いと様々な合併症を起こしやすく、そのうちの一つに足の感覚が鈍くなる糖尿病性の神経障害があります。そのため、糖尿病患者さんは足の痛みを感じにくくなっているので、物を踏んで足に傷ができては気が付きません。どんどん傷がひどくなり、感染を起こして汁や血が靴下につくようになって初めて傷があることに気が付くこともあります。Cさんは、細い針金のようなものを踏んで、かかとに傷ができていましたが、しばらく医療機関を受診していませんでした。感染を起こして足が腫れたために近医を受診し、当科を紹介されてこられたときには、かかとはゴルフボール大ぐらいの範囲で壊死し骨のすぐ近くまで達していました。Cさんは、血流は保たれていたので、感染している部分を早急に切開して内部を洗浄し、感染のコントロールをつけることと、壊死した組織を除去する必要性がありました。抗生剤の投与と連日の洗浄処置で感染のコントロールをつけ、壊死組織を少しずつ除去していきましたが、骨の近くまで達する深くて大きい穴が開いている状態ですので、傷が治るためにはその穴を肉がふさいでくれないといけません。そこで陰圧閉鎖療法を併用しました。陰圧閉鎖療法とは、組織が失われた傷口に対して、体外から陰圧をかけて傷の治療をうながす方法のことです。具体的には傷全体をスポンジ状の素材で覆い、フィルムで密封してチューブをつなげて内部の空気を吸引することで陰圧をかけ、余計な水分を取り除く一方で、乾燥を防いで傷の治療に適した湿潤環境を保ちます。また、陰圧をかけることで血流を改善し、肉芽形成（肉が盛ること）をうながしたり、傷を小さくするなどの効果もあると言われています。このシステムを併用することで、Cさんも無事大きな穴をふさぐことができ、外来に歩いて通院して下さっています。



治療前 治療後



これらの症例は無事傷を治すことができた症例ですが、先ほど述べたように、我々のゴールは傷を治すことだけではありません。重症下肢虚血患者さんや、糖尿病患者さんは、残念ながらこのような傷を繰り返される方が多いため、傷が治ったあとも定期的に外来を受診していただき、新たな傷ができていないかチェックしたり、タコやウオノメのケア、爪切りなどを行います。ここで活躍してくれるのがフットケア外来を担当する看護師です。専門のトレーニングを受けて、フットケアに精通した看護師がどんな小さな傷やトラブルも見逃しません。

このように、我々は様々な業種の専門家がお互いの分野で最大限の力を発揮し、患者さんの歩行能を守るという一つのゴールに向かって日々力を合わせています。



地域連携医紹介

地域の医療機関との緊密な連携と機能分担を推進し、医療技術の向上を図ります。

松本内科循環器科医院

診療科目／内科・消化器科(胃腸科)・循環器科

まつもととしゆき
院長 松本敏幸

吉島バス通りの中区光南町に昭和44年、父が開業し半世紀になります。現在は内科・循環器疾患の診療を中心に、企業健診や予防接種・介護保険申請などのお手伝いもさせて頂いております。入院治療を要する患者さんの診療には近隣の総合病院と連携をとりながら拝診しており、特に循環器疾患・腎疾患や甲状腺疾患など土谷総合病院の先生方がいつも迅速な対応をしてくださり大変心強い存在です。私自身が生まれ育ったこの地域がいつまでも住みやすい素敵な街であり続けられるように微力ながら貢献できればと思っております。

診療時間／9:00～12:30、14:30～18:00(木曜日・土曜日は午前のみ)
休診日／日曜日、祝祭日

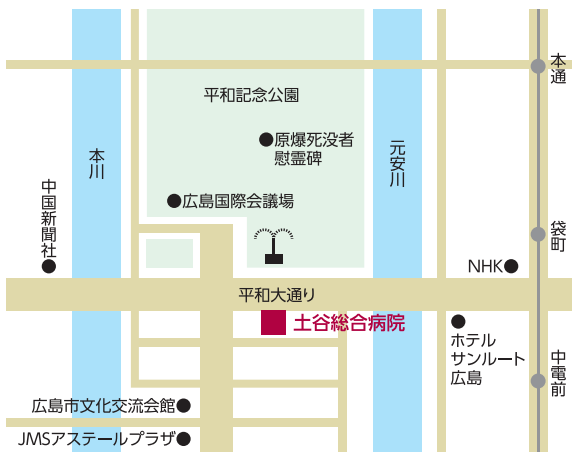
住所／〒730-0825広島市中区光南1丁目16-23 TEL／082-243-7585
FAX／082-249-7324



医療法人あかね会

■土谷総合病院

〒730-8655 広島市中区中島町3番30号
TEL:082-243-9191(代)



■在宅事業部(介護サービス部門)

土谷訪問看護ステーション

光南 TEL:082-544-2789 西広島 TEL:082-507-0855
大町 TEL:082-831-6651 出汐 TEL:082-250-1577
佐伯 TEL:082-925-0771

土谷ヘルパーステーション

光南 TEL:082-545-0311 西広島 TEL:082-507-0877
大町 TEL:082-831-6654 出汐 TEL:082-250-5080
佐伯 TEL:082-925-0770 戸坂 TEL:082-502-5205
可部 TEL:082-819-2250 矢野 TEL:082-820-4825
阿品 TEL:0829-20-3585

■阿品土谷病院

〒738-0054 広島県廿日市市阿品四丁目51番1号
TEL:0829-36-5050(代)

■大町土谷クリニック

〒731-0124 広島市安佐南区大町東二丁目8番35号
TEL:082-877-5588(代)

■中島土谷クリニック

〒730-0811 広島市中区中島町6番1号
TEL:082-542-7272(代)

■介護老人保健施設シエスタ

〒738-0054 広島県廿日市市阿品四丁目51番1号
TEL:0829-36-2080(代)

土谷居宅介護支援事業所

光南 TEL:082-504-3202 西広島 TEL:082-507-0866
大町 TEL:082-831-6653 出汐 TEL:082-250-3730
佐伯 TEL:082-925-1550 戸坂 TEL:082-502-5215
矢野 TEL:082-820-4835 阿品 TEL:0829-20-3721

土谷デイサービスセンター

光南 TEL:082-544-2885 大町 TEL:082-831-6600

スタッフ募集

心豊かな医療を提供し、楽しく時間を共有しながらスキルアップに繋げるために、あかね会では、やる気のある方、経験豊富な方の募集を随時行っています。詳しくはホームページをご覧ください。

土谷総合病院

検索



医療法人あかね会 本部事務局

〒730-0811 広島市中区中島町4番11号
TEL:082-245-9274
http://www.tsuchiya-hp.jp

2019年7月発行